

複合災害等により孤立した場合の対応（福井県）

- UPZ内では、全面緊急事態となった場合、屋内退避を行う。その後、一時移転等の指示が出た場合には、避難を実施。
- UPZ内の半島部において、複合災害の発生等により住民が孤立した場合には、臨時ヘリポート（夜間対応可）や漁港を活用し、空路や海路による避難を実施。また、空路や海路での避難体制が整うまで放射線防護対策施設を含む屋内退避施設にて屋内退避を実施し、避難体制が十分に整った段階で一時移転等を実施。
- UPZ内の中山間地域においても、集落へのアクセス道が寸断され、住民が孤立化した場合には、臨時ヘリポート（夜間対応可）を活用し、空路による避難を実施。
- また、道路等の管理者は、孤立した地区の避難路を優先して、迅速かつ的確な道路啓開、仮設等の応急復旧を行い、早期の道路交通の確保に努める。

<UPZ内半島部における臨時ヘリポート等整備場所>

半島部	該当地区名	整備場所
おしま 大島半島	おおい町大島地区	大島漁港（はまかぜ交流センター西側）
うちとみ 内外海半島	小浜市内外海地区	泊区内場外離着陸場
つねがみ 常神半島	若狭町西浦地区	常神漁港駐車場

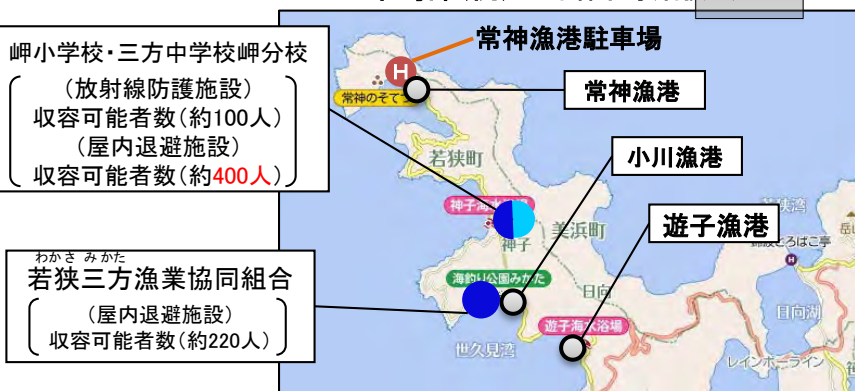
<UPZ内中山間地域における臨時ヘリポート整備箇所>

中山間地域	該当集落名	整備場所
おおい町名田庄地区	榎谷、虫鹿野、虫谷、木谷、堂本	名田庄中学校グラウンド
小浜市口名田地区	西相生、奥田縄、須縄	口名田小学校グラウンド
〃 遠敷地区	上根来、下根来	遠敷小学校グラウンド
若狭町熊川地区	河内	熊川小学校グラウンド

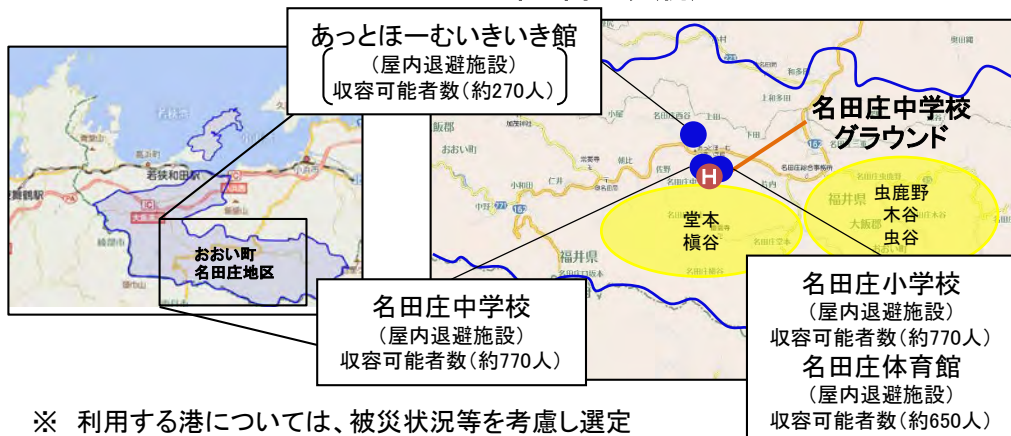
<凡例>

- : 放射線防護施設（収容可能者数）
- : 放射線防護施設以外の屋内退避施設（収容可能者数）
- H : ヘリポート適地
- : 港湾

半島部（例） 常神半島（若狭町）



中山間地域（例） おおい町名田庄地区



- ※ 利用する港については、被災状況等を考慮し選定
- ※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、実動組織（警察、消防、海保庁、自衛隊）に支援を要請

京都府におけるUPZ内の医療機関・社会福祉施設の避難先

- ▶ 京都府では、UPZ内にある全ての医療機関、社会福祉施設(○施設○○人)については、国の原子力災害対策本部から一時移転等の指示が出た場合における受入候補施設を、京都府災害時要配慮者避難支援センターの調整により確保。
- ▶ UPZ内にある全ての医療機関、社会福祉施設において個別の避難計画を策定済み。

< UPZ内 >

< UPZ外 >

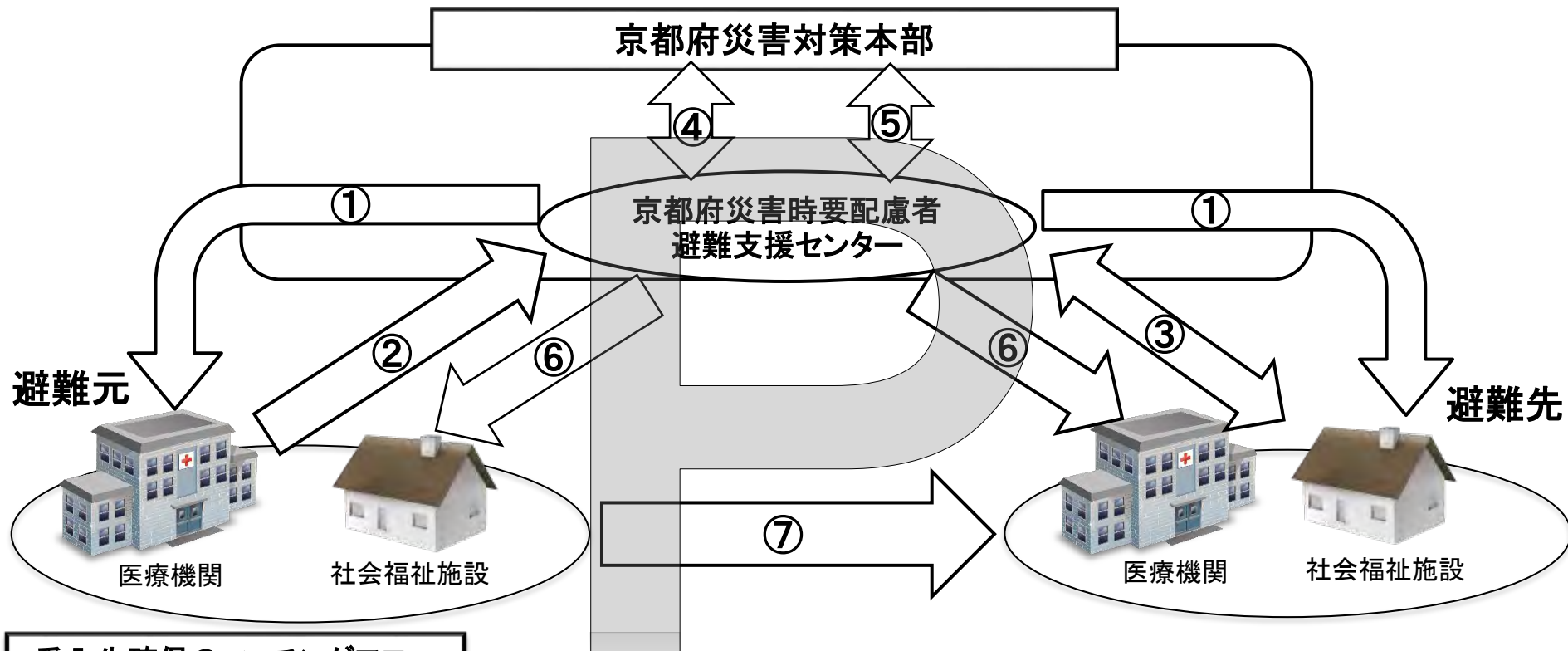
施設区分		施設数 (施設)	入所者数 (人)
医療機関(病院・有床診療所)		○	○○
社会福祉施設	介護保険施設等	○	○○
	障害福祉サービス事業所等	○	○○
	児童養護施設等	○	○○
	小計	○	○○
合計		○	○○

受入先調整
(京都府災害時要
配慮者避難支援セ
ンター)

受入候補 施設数 (施設)	受入可能 人数(人)
○	○○
○	○○
○	○○
○	○○
○	○○
○	○○
○	○○

- ※ 社会福祉施設については同種の施設への避難が基本であるが、医療ケアが必要な約○○人については医療機関へ搬送
- ※ 平成○年○月○日現在
- ※ 京都市他府内市町に避難先を確保

➤ 京都府では、一時移転等の防護措置が必要になった場合、京都府災害対策本部内に設置される京都府災害時要配慮者避難支援センターが受入れに関する調整を速やかに実施。



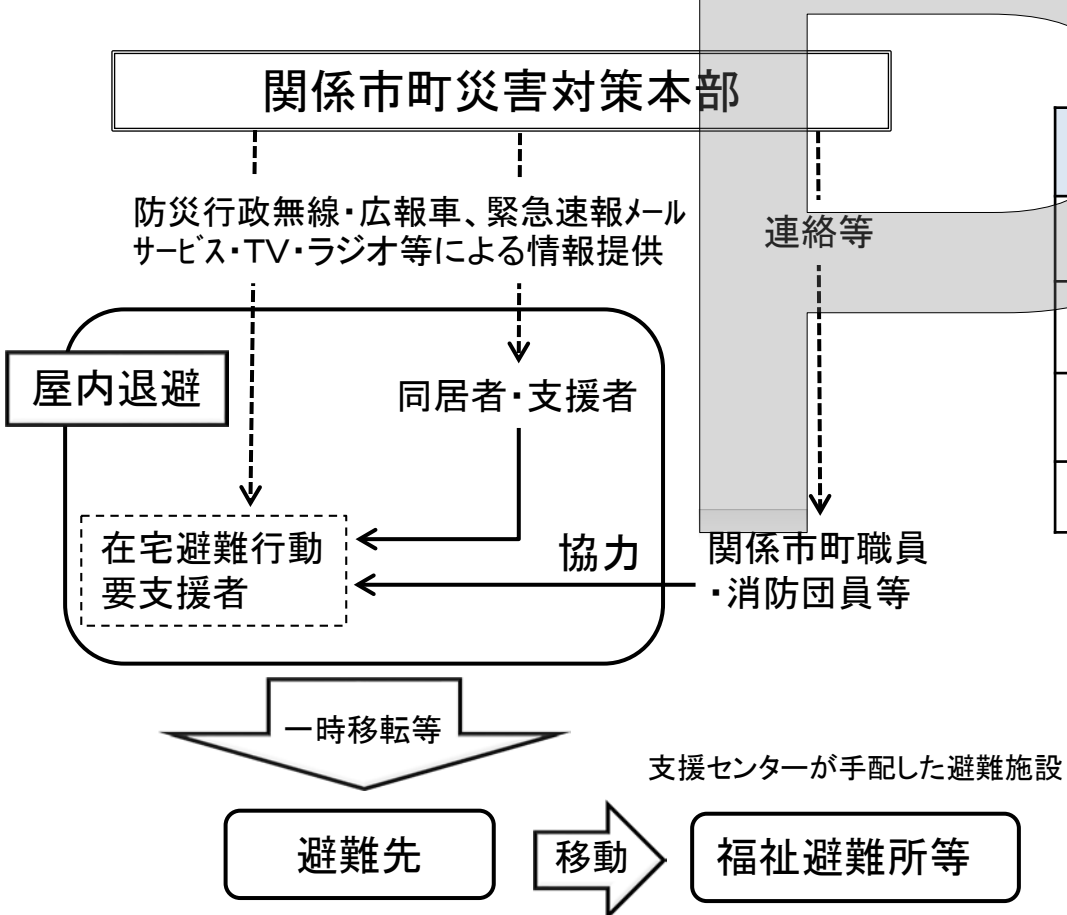
受入先確保のマッチングフロー

- ①: 災害時要配慮者避難支援センターから受入れ先・避難元双方の医療機関・社会福祉施設へ、災害に関する情報を提供
- ②: 避難元医療機関・社会福祉施設からセンターへ、避難者数及び必要な移送手段を報告
- ③: センターによる受入先の状況確認及びマッチングの実施
- ④: センターと京都府災害対策本部において調整の上、必要な輸送手段を確保
- ⑤: センターと京都府災害対策本部による移送等の避難実施についての協議・調整
- ⑥: センターから受入れ先・避難元双方の医療機関・社会福祉施設へ、避難方針を連絡
- ⑦: 避難の実施

※ 事態の規模、時間的な推移に応じて、早期の段階で避難等の予防的防護措置をとる場合に備えて、UPZ内の医療機関・社会福祉施設を対象に避難時の対応についての具体化・充実化を行っていく。
 ※ 京都市他府内市町に避難先を確保

京都府のUPZ内における在宅の避難行動要支援者の防護措置

- 在宅の避難行動要支援者及び同居者並びに屋内退避や避難に協力してくれる支援者に対し、防災行政無線、広報車、緊急速報メールサービス、TV、ラジオ等を用いて情報提供を行い、在宅の避難行動要支援者の屋内退避・一時移転等を実施。
- 支援者の同行により、地域住民と一緒に避難できる在宅の避難行動要支援者は、一時移転等が必要となった場合、関係市町が準備した避難先に一時移転等を行う。なお、介護ベッド等が必要な在宅の避難行動要支援者は京都府災害時要配慮者避難支援センターに依頼し避難先を確保。
- 支援者のいない者については、今後支援者を確保していく。また、支援者を確保できない場合においても、関係市町職員、自治会、消防職員・団員等の協力により屋内退避・一時移転等ができる体制を整備中。



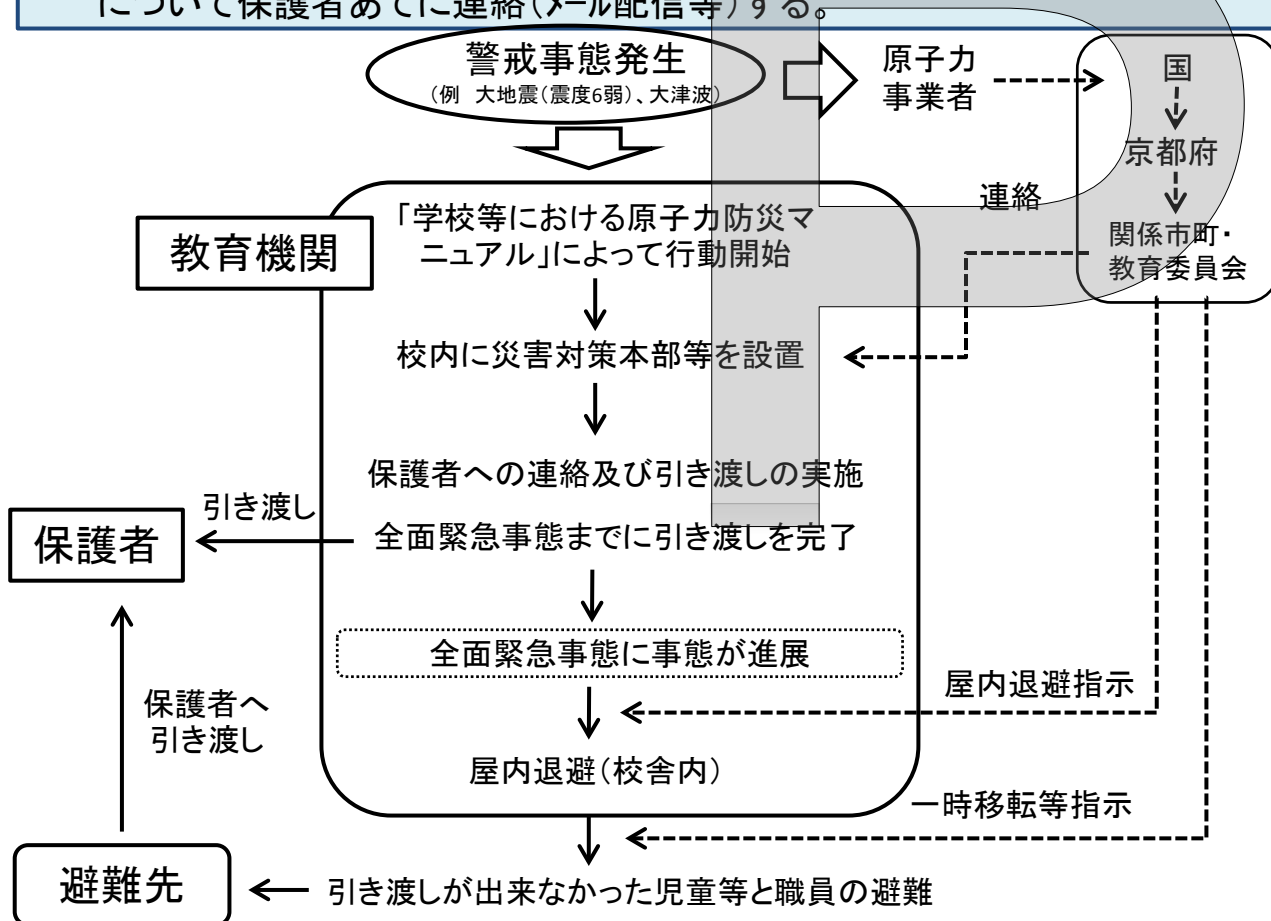
UPZ内の在宅の避難行動要支援者数(暫定値)

	UPZ内(人)		UPZ内(人)
まいづるし 舞鶴市	〇〇(〇〇)	ふくちやまし 福知山市	〇〇(〇〇)
あやべし 綾部市	〇〇(〇〇)	みやづし 宮津市	〇〇(〇〇)
なんたんし 南丹市	〇〇(〇〇)	いねちよう 伊根町	〇〇(〇〇)
きようたんばちよう 京丹波町	〇〇(〇〇)	合計	〇〇(〇〇)

※ ()内は支援者有り
 ※ 平成〇年〇月現在 各市町において精査中
 ※ 京都市他府内市町に避難先を確保

京都府におけるUPZ内の学校・保育所等の防護措置

- 京都府では、警戒事態発生時に、UPZ内に位置する保育所・幼稚園、小学校及び中学校等毎に校長等を本部長とする学校災害対策本部等を設置する。
- 全ての学校・保育所において学校原子力災害時避難計画を策定済みであり、施設敷地緊急事態により市町災害対策本部から屋内退避の準備として帰宅指示が出された場合には、児童等を保護者に引き渡し、全面緊急事態までに完了する。
- 引き渡しができない児童等は、屋内退避(校舎内)を実施する。その後、事態が悪化し、市町災害対策本部から一時移転等の指示が出された場合は、職員等とともに一時移転等を行い、避難先において保護者に引き渡す。
- 関係市町災害対策本部や関係市町教育委員会等の指示に従い、学校等の対応(屋内退避)及び保護者の迎え等について保護者あてに連絡(メール配信等)する。



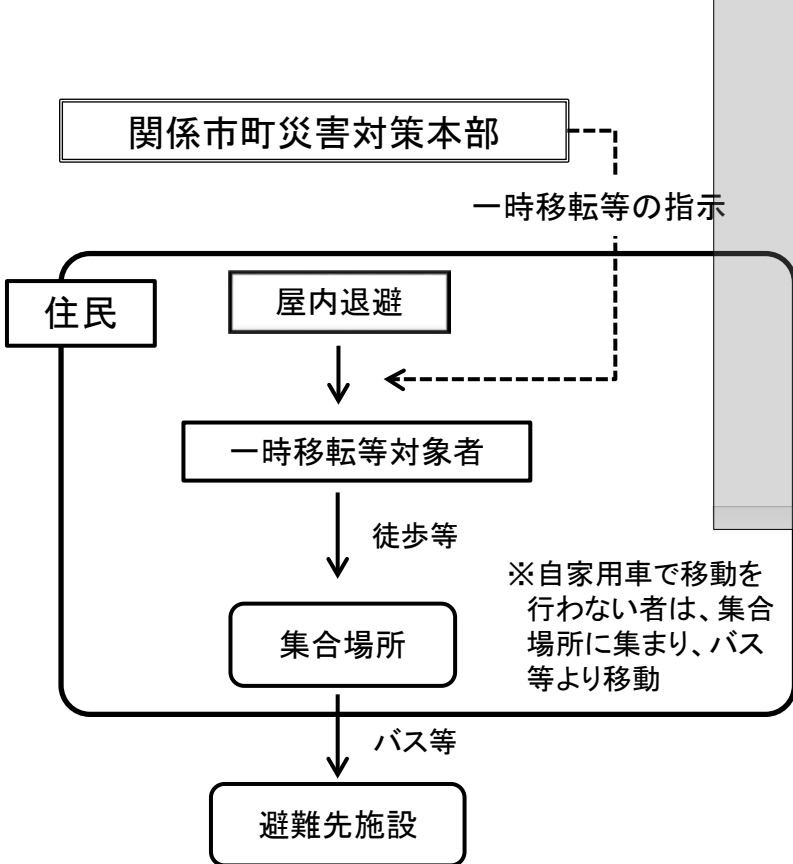
UPZ内の教育機関数

	教育機関数 (機関)	児童・生徒数 (人)
保育所・幼稚園等	○	○○
小学校	○	○○
中学校	○	○○
高等学校	○	○○
専修学校	○	○○
特別支援学校	○	○○
合計	○	○○

平成○年○月○日時点

京都府におけるUPZ内の一般住民の防護措置

- 国の原子力災害対策本部は、緊急時モニタリングの結果に基づき、空間放射線量率が毎時500 μ Sv超過の区域に対して数時間から1日以内に避難を、20 μ Sv超過の区域に対して概ね1週間程度内に一時移転を指示。
- 国の原子力災害対策本部の指示に基づき、当該区域の市町災害対策本部より、防災行政無線、広報車、緊急速報メールサービス、TV、ラジオ等を用いて一時移転等の指示を伝達。
- 当該住民は避難計画で定めている避難先へ一時移転等を実施。
- 京都府では、渋滞抑制の観点から、原則バスによる移動を実施。



<UPZ内市町の避難先>

市町名	府内避難先		府外避難先	
	南方向	西方向	兵庫県	徳島県
舞鶴市 〇〇人	京都市、宇治市、 城陽市、向日市	※府外避難先と同一	兵庫県 神戸市、尼崎市、 西宮市、淡路市 (合計〇〇人)	徳島県 鳴門市、松茂町、 北島町(合計〇〇人)
綾部市 〇〇人	福知山市、亀岡市	福知山市	兵庫県	相生市、赤穂市、 宍粟市、たつの市、 太子町、佐用町 (合計〇〇人)
南丹市 〇〇人	南丹市内	南丹市内		洲本市、南あわじ市 (合計〇〇人)
京丹波町 〇〇人	京丹波町内	京丹波町内		芦屋市 (合計〇〇人)
福知山市 〇〇人	福知山市内	福知山市内		上郡町 (合計〇〇人)
宮津市 〇〇人	長岡京市、八幡市、 京田辺市、木津川市	福知山市、京丹後市、 与謝野町		明石市、加古川市、 高砂市(合計〇〇人)
伊根町 〇〇人	精華町	京丹後市		稲美町、播磨町 (合計〇〇人)

※平成〇年〇月〇日時点